

令和7年度 富岡地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

○担当地区の高齢化が進み、高齢化率は市や金沢区の平均を上回っています。一人暮らしや高齢者世帯の増加も進んでおり、長年活動を続けてきた地域団体やボランティアの高齢化など他地区と同様の悩みがあります。山坂の多さも高齢者を悩ます大きな要因となっています。

○町内会等地域団体を基礎とする活動は活発に行われており、地域のコミュニティーは確保されています。民生・児童委員などによる福祉保健活動も活発です。そこでこのような地域団体等との情報交換や地域課題を考える各種の会合を通じて人材の発掘確保・地域課題の抽出などに取り組み、必要な支援を地域とともに考えていきます。

今年度の重点的な取組

新規
継続

— 具体的な取組内容 —

<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	包括が受けた新規相談の内容をマップに色別シールで落とし込み、どこにどんな困りごとがあるのかを見える化し
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	医療機関連絡会のような協議の場をつくるため、担当地域内の医療機関との関係構築を目指す。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域のサロンや笑みカフェ、ゲームでスポーツでセルフチェックツール「のうKNOW」を活用して脳の健康度チェックや回想法やレクリエーションを行っていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	総合の時間に行われる福祉教育などに関わり、授業を通して児童への理解を深める。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

・個別相談内容のマップへの落とし込みにて困りごとと地域性との関係性はまだはっきりとは見えていないものの、データを集積し続けることで気づきが現れることを期待して5職種連携を深めていきたいです。

・医療機関連携については地道に訪問を続けて関係構築を進めています。同時にケアプラザ紹介カードの配布を行ったことで相談対応件数の増加につながったように思います。

・「のうKNOW」を笑みカフェやイベントで実施。脳の健康度を数値で示すことができ、認知症の早期発見・予防に繋げることができました。ゲーム感覚でチェックできるため興味本位で参加される方もおり、認知症に対する関心が高い方はもちろんのこと、そうでない層への波及も効果が認められました。

・近隣小中学校への福祉教育への参加、アプローチの結果、学校と地域ケアプラザの連携強化につながり、児童との交流を増やすことができました。小中学校教育における家庭科にて『地域を学ぶ』カリキュラムができたため、一貫して関わらせていただき学びを深められるようになりました。地域を知ってもらい多様化を認め合う心を培っていけるようケアプラザも協力していきます。

区からのコメント

地域に継続して出向き、学校や地域団体、医療機関等と丁寧に関係づくりを行いながら、高齢者に限らず子どもや子育て世代など幅広い層の相談を受け止めてきた取組は、地域の安心につながっています。

新規相談をマップで可視化する地域アセスメントや、支え合い連絡会を通じた住民主体の取組、医療・企業等とのネットワーク構築など、地域課題を踏まえた工夫をしてくださっています。また、モルック等の交流事業や福祉教育を通じた小中学校との交流は、多世代の地域参加を促す有意義な実践です。

今後も関係機関との連携を深めながら、区役所としても必要に応じた情報共有や連絡調整を行い、地域の取組が着実に進むよう連携していきたいと考えています。

チームオレンジとしてeスポーツ等に取り組んでいただきましたが、今後も当事者や家族の声を踏まえて取組を進めていただきたいと思えます。虐待対応や後見申立て支援では区や関係機関と緊密に連携し、迅速かつ丁寧な対応を行っていただきました。民間事業者との連携により様々な事業を企画・開催されており、普段相談に繋がらない人に対してもケアプラザの存在を周知するひとつのきっかけになったと思えます。今後も住民・民生委員・事業者等とのつながりを生かし、地域全体に見守りが広がり支援体制が更なる発展されるよう取組を期待しています。